



Class average score for teacher support and relief of depression in adolescents: A population study in Japan

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2016-06-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 水田, 明子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/2916

論文審査の結果の要旨

中学生の抑うつが急増し、それが社会的にも喫緊の課題となっている。申請者は中学生の抑うつ緩和に対して社会や学校が何をすべきかについて提案するための疫学的検討を行った。申請者は学校のクラス単位でみた教員のサポートと中学生の抑うつ緩和との関連に着目し静岡県内の2市にある公立中学校8校で、全生徒2,968人に質問紙調査を行った。調査内容はうつ病のスクリーニングテストである Depression Self-Rating Scale for Children(DSRS-C)を用いた。18項目3段階評価で、カットオフ値16点未満を抑うつ低値、16点以上を高値とした。教員からのサポートは中学生用 The Scale of Expectancy for Social Support(SESS)を用いた。抑うつレベル、教員サポート、生徒の特性である成績満足度、経済状況、性、学年、家族構成を調査した。教員サポートについては個人が感じるサポート評価とそれを平均化したクラス平均でみた教員サポート評価の2つを調査した。分析可能生徒数は2,780人で有効回答率は93.7%であった。抑うつ高値は全体の25.0%(男18.8%、女31.4%)であった。クラス平均でみた教員サポートと個人が感じる教員サポートとの相関係数は $r=0.317$ であった。交絡因子を調整したロジスティック回帰分析の結果、クラス平均でみた教員サポート高値、個人が感じる教員サポート高値、成績満足度高群、経済状況高群が抑うつと有意な負の関連があった。抑うつに対するクラス平均でみた教員サポートの効果に影響を及ぼす生徒の特性としては成績満足度が有意な交互作用を示した。教員からのサポートと中学生のメンタルヘルスに焦点を当てた日本で初めての大規模研究であり、成績満足度の低い生徒においてクラス担任によるサポート程度が抑うつと関連がないことが示された。今後の中学校において教員がどのような介入をすることが中学生の抑うつを防止できるかを示唆する重要な研究である。

以上により、本論文は博士(医学)の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者

主査 金山 尚裕

副査 福田 敦夫

副査 永田 年